
獨協大学耻風地区現地調査報告書

- ・大竹伸郎（指導教員）・米山昌幸（指導教員）
 - ・飯島竜太郎（代表）・山田雄大（副代表）・吉澤聖菜・高村ひとみ
 - ・中里美香・西家笑実香・小林風夏・羽賀咲弥加・荒井眞子
-
-

参加学生一覧

氏名	学科	学年
飯島竜太郎	経営	3
山田雄大	国際環境経済	3
高村ひとみ	国際環境経済	3
吉澤聖菜	国際環境経済	3
中里美香	国際環境経済	2
西家笑実香	国際環境経済	2
小林風夏	国際環境経済	1
荒井眞子	国際環境経済	1
羽賀咲弥加	国際環境経済	1

[目次]

1. はじめに
2. 耻風地区の位置と概要
3. 耻風地区の現状と課題
 - 3.1 耻風地区の人口
 - 3.2 耻風地区の地域特性
 - 3.2.a 気候・地理的要因
 - 3.2.b 耻風地区(会津田島)の降雪
 - 3.2.c 災害情報
 - 3.3 産業
 - 3.3.1 第1次産業(農業)
 - 3.3.1.a 蕎麦の概要
 - 3.3.1.b きのこと山菜
 - 3.3.2 第3次産業
 - 3.4 観光資源
 - 3.4.1 蓮の栽培状況
 - 3.4.2 林檎の栽培状況
 - 3.4.3 尾瀬の影響
 - 3.4.4 館岩川
 - 3.5 耻風地区の暮らし
 - 3.5.1 インフラ面
 - 3.5.1.a 交通情報
 - 3.5.1.b インフラ情報
 - 3.5.1.c その他
 - 3.5.2 周辺の教育機関
 - 3.5.2.a 幼稚園
 - 3.5.2.b 小学校
 - 3.5.2.c 中学校
 - 3.5.2.d 高校
 - 3.5.3 周辺医療機関
4. 課題
 - 4.1 高齢化
 - 4.2 暮らし
 - 4.3 観光資源

5.提案

- 5.1 観光マップに耻風の名前を増やす
- 5.2 耻風の特産品のブランド化
- 5.3 耻風の方々が獨協大学を訪れ交流会の開催
- 5.4 耻風地区の蔵の活用

6.終わりに

7.調査資料

7.1 そば打ち体験

1. はじめに

大学生等の力を活用した集落復興支援事業に獨協大学は経済学部国際環境経済学科長の米山昌幸教授の呼びかけにより 2017 年に初めて参加した。獨協大学大竹チームは、経済学部国際環境経済学科の大竹伸郎准教授の指導のもと、福島県南会津町耻風地区との提携を結び、今回のプロジェクトのために集まった 1～3 年生男女 9 名のチームである。所属は全員経済学部であり、とくに国際環境経済学科からの参加が多い。耻風地区は提携候補の中でも人口が非常に少ない地区ではあったが、福島県中心部から離れた山間地域であることから、メンバーの所属している国際環境経済学科の専門である環境や持続可能な開発についての知識が生かせるとの考えから提携を希望した。大竹チームは 11 月 18 日、19 日及び 12 月 9 日、10 日の計 2 回に及び実態調査を実施した。以下は現地調査行程表である。

第 1 陣

実施調査日	平成 29 年 11 月 18 日～11 月 19 日	
	11 月 18 日	午前 区長への挨拶 午前中調査(耻風案内役のもとで) 午後 住民の方へのヒアリング調査
11 月 19 日	午前	地域資源調査(蓮、そば、リンゴ、空き家の状態など) 地形調査(山、川の実態調査) 聞き取り調査をもとに意見交流会
	午後	
		耻風地区出発(会津田島駅へ)

第 2 陣

実施調査日	平成 29 年 12 月 9 日～12 月 10 日	
	12 月 9 日	午前 ～12 : 00 頃 耻風地区の蕎麦粉を使い蕎麦打ち体験
		午後 住民の方へのヒアリング調査(清水屋周辺)
12 月 10 日	午前 耻風集落資源調査	
	午後	
	提案内容話し合い(林間学校、蔵カフェ、特産品化、町マップへ耻風の魅力を盛り込む)	

2. 耻風地区の位置と概要

図 1 耻風地区の位置



※ 円グラフは耻風地区から車で約 30 分の時間距離を表す。

[出典]国土地理院「地理院地図」に加筆して作成(以下の URL を参照)

(<https://maps.gsi.go.jp/#15/37.136395/139.497162/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0l0u0t0z0r0f0>)

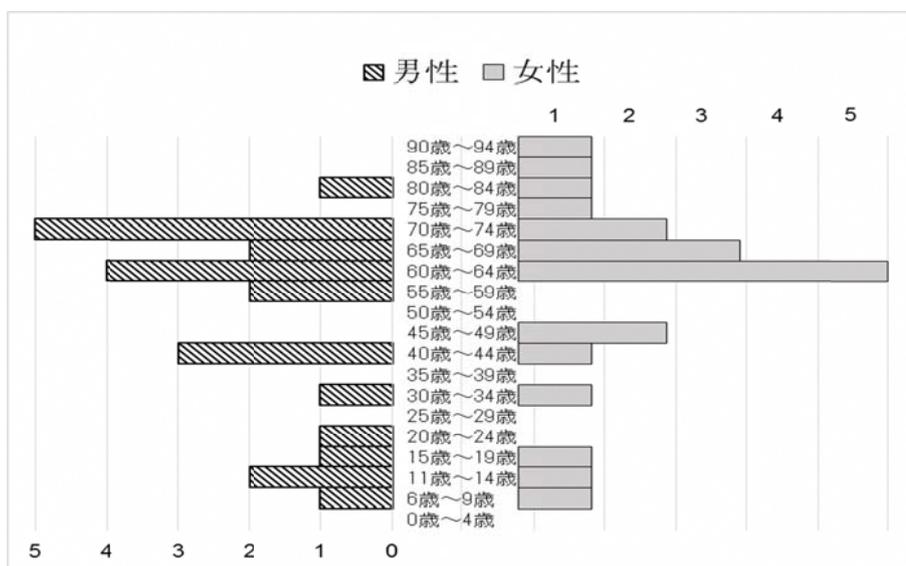
図 1 を見ると耻風地区は、国道 352、401 号に面しており会津田島駅より約 40 キロ離れており同駅より路線バス出ている。山地の中に位置する一方、車でのアクセスの際は、県内の会津若松や白河、県外の日光や新潟、魚沼など多方面からのアクセスが期待できる位置にあり鉄道の便は悪いが車でのアクセスは比較的し易い位置にある事が分かる。また、南会津町に位置し人口 44 人、18 世帯の地区であり高齢化率は 38 パーセントと高く標高約 630 メートルにあり東西を山に囲まれた地形で南北に流れる館岩川沿いに集落が密集している。主な産業は農業であり現在はそば、果樹、野菜の栽培が盛んに行われており現在、稲作は行われていない。

3. 耻風地区の現状と課題

3.1 耻風地区の人口

平成 29 年のデータに基づき高齢偏差値を作成した(図 2 参照)。計 44 名(男性 23 名 女性 21 名) 出生率の低下と若い世代は一度学校等により都心部へ出てしまうと勤め先がないため耻風地区から出て行ってしまう傾向にあり高齢化率は 38.64%と高いということが分かる(図 3 参照)。特に 55 歳以上の人口が多く将来的に集落機能の維持が難しい現状が。

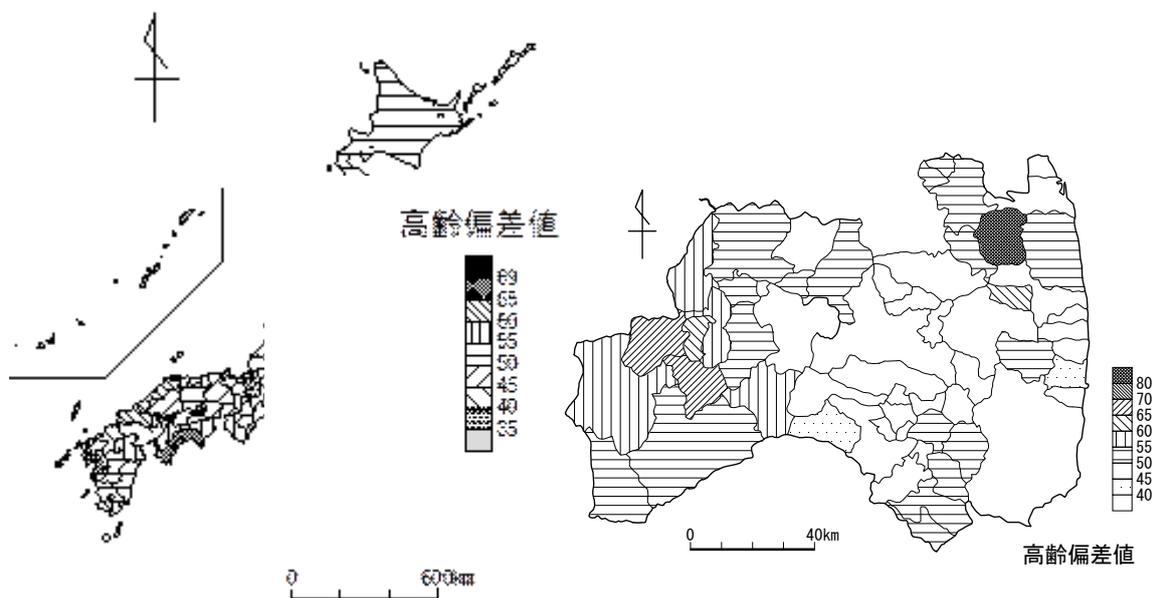
図 2 耻風地区の人口ピラミッド



[出典]出典人口統計ラボ耻風年齢別人口を元に作成

参考 URL(<https://toukei-labo.com/2010/danjo.php?tdfk=07&city=07368&id=81>)

図3 日本(都道府県別)と福島県(市町村別)における高齢化の現状(2015年)

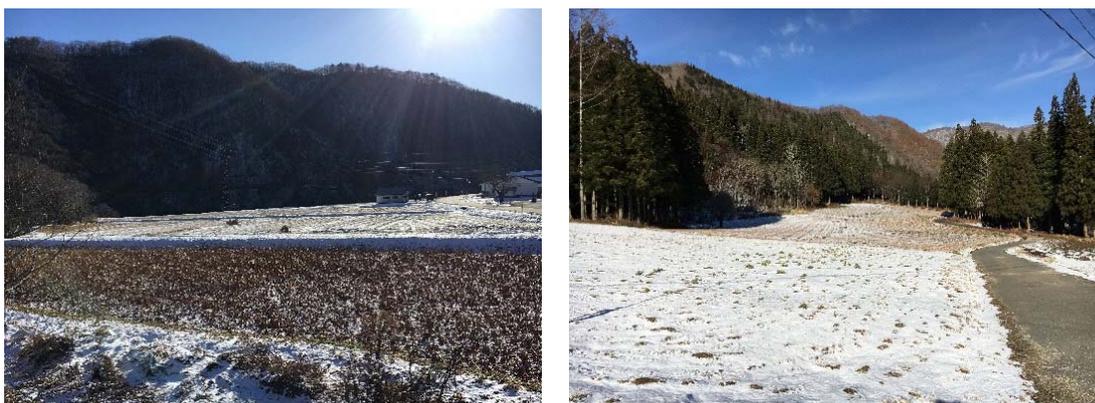


[出典]国勢調査データを元に作成
 参考 URL(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/index.htm>)

3.2 耻風地区の地域特性

3.2.a 気候・地理的要因

写真1 耻風地区風景



撮影日 2017年11月18日

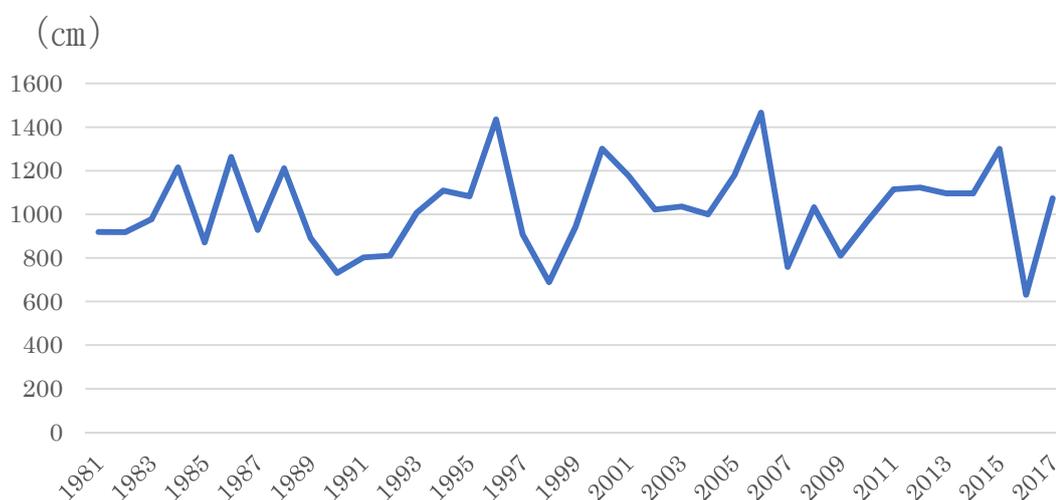
耻風地域一帯が山に囲まれていることから春先・秋は風が強く突風が起こる、冬は降雪量が多く過去には、公民館の屋根や壁が強風により飛ばされたこともある程風が強い特性がある(写真1参照)。最近では、住民の方が個人で所有する蔵の屋根が飛ばされ、破損する

度に修理費が掛かるため蔵の維持問題にも直接関わってくる問題がある。しかし、寒暖差が激しいため農作物の甘みは強くなり美味しい作物が栽培できるため住民は出荷目的ではなく個人・または地域の住民のみで消費する目的で栽培をしている。

3.2.b 耻風地区(会津田島)の降雪

耻風地区に最も近い気象庁南郷地区の観測所のデータより年間合計積雪量を確認した(図4 参照)。耻風地区は南郷地区よりも標高が高いため、このデータよりもさらに多くの積雪があると推測される。平均して約 1000 センチ前後の積雪が毎年あることがグラフよりわかる。

図4 南郷地区の年間積雪量の推移(1981~2017年)



[出典]気象庁データより作成

参考 URL

(www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_a1.php?prec_no=36&block_no=0303&year=2017&month=12&day=1&view=a4)

除雪に関して自宅は家族で対応し、留守の家・空き家などは半分ボランティアで行っており公共物は普請で対応し区費で支払う、特にスクールバス、バス停は降雪の都度実施している。消火栓は分担制となっており毎年降り積もった雪の除雪作業を朝早くからやるには高齢化した耻風地区では年々大変になっていくだろう(写真2 参照)。

写真2 耻風地区の積雪の様子



[出典]気象庁HPより

以下参考 URL

(www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_a1.php?prec_no=36&block_no=0303&year=2017&month=12&day=1&view=a4)

3.2.c 災害情報

周囲を山に囲まれているため土砂災害が起こることがある。土砂災害によって畑やリンゴ畑などが被害にあった。特にこの地区の周りでは開沢山、鬼丸山に危険箇所がある。

平成 23 年の 7 月下旬に発生した台風 23 号が新潟県、福島県会津を襲い、その日だけで月平均量の 2 倍を上回るような記録的な大雨となった。福島県南会津町舘岩では日降水量が 149mm を記録した。この災害でこの地域も打撃を受けており、土石流の災害があった。

また、国内で発生した顕著な地震の震源地として福島県沖、福島中通りを含むなど、地震の発生も多い。

3.3 産業

3.3.1 第 1 次産業（農業）

耻風地区の約 7 割は田畑として利用されている。そのうち、約 3 分の一が田（転作）として利用されており、残りは畑として利用されている(写真 3 参照)。

農地や農業施設の水路、農道等の維持管理は多面的機能支払交付金事業で実施されている。また、林地の管理状況は森林組合と委託契約をして対応している。耕作放棄等による荒廃農地は特にないが、昔からの土砂災害による堆積土石が残っているため、耕作ができない状況にある。

過去に林檎、桃、米の栽培を行っていたが現在は衰退してしまっている。林檎と桃は土砂災害による影響、米は土地が高地にあるため水を引くことが大変であることが理由として挙げられる。また、若者が少ないため体力的にも維持・管理が難しいということも理由である。

写真 3 耻風ふるさと保全会協会農用地位置図



[出典] 耻風ふるさと保全会協定農用地位置図

※ 記号、・は田畑、\は畑、黒塗りは道路を薄色部分は用水路を表わす

3.3.1.a 蕎麦の概要

(1) そばの歴史

そばの歴史は古く、寿司、天ぷらと並ぶ代表的な日本料理である。このそばの調味として作られるつゆ（そば汁）は地域によって色・濃さ・味にも明らかなちがいがあり、成分も各地によって好みが分かれる。現代では専門店のみならず外食チェーンなどのメニューにもあり、小売店でも乾麺または茹で麺の状態の販売されたり、カップ麺としても販売されたりしている。

(2) そばの材料・製法

そばの材料はそばの実。そば粉にし、練ったものをうすくのぼし包丁で細く切つてゆく。粘着剤として小麦粉を使用する場合が多い。

(3) そばの栄養

そばは現在スーパーフードとして再び注目を浴びつつある。そばの栄養特徴としては主成分であるデンプン質のほかにタンパク質やビタミンB群も豊富に含みタンパク質はタンパク価が 72 以上あり白米と同等量以上の良質なタンパク質を含んでいる。また、食生活に欠かすことのできない必須アミノ酸を豊富に含んでいる。(リジン、トリプトファン) さらに、つなぎの際に使用する小麦粉にはメチオニンやシ

スチンを含むのでそば湯はタンパク質補給に優れている。その他、ビタミン B₁、B₂を多量に含み「そばがき」一人前（そば 100 g）で B₂は成人 1 日当たりの必要量の約 40%を補給できる。

(4)そばの美容効果

そばにはアンチエイジング効果がある。また疲労回復ビタミンといわれるビタミン B₂も豊富に含み体力回復などにも効果がある。そばに含まれるルチンという成分はシミやシワなど老化の原因となる活性酸素を除去する効果もある。また、低カロリーであることも魅力の一つである。

(5)趾風地区のそばの現状

そばは趾風地区の多くの人が栽培している主要な農作物である。短い期間で栽培できるため取り扱いやすい。そばの実（540 円/500g）、そば粉（1300 円/kg）を 5 日おきくらいに 10 個ほど宇都宮市や道の駅、らくらく市、田島 JA へ販売している。NHK でそば特集をされたときは売上が上がった。蔵を所有しており、そばを精製する際に利用している。

3.3.1.b きのこ・山菜

稚茸（ちたけ）は出汁をとることに向いている食材である。稚茸を使った汁物は香りが強く、優しい味が特徴である。ワラビやふきのとうなどの山菜は、主に地域の方々が栽培・収穫し、食べている。しかし近頃は高齢化の影響もあり、収穫が大変になってきている。山菜の主な収穫時期は春である。

だが、住民は周辺の山菜情報が有名になり山に人が多く集まり山の環境が荒らされる事を懸念するため、山菜を観光資源とした観光地化は適切ではない。

3.3.2 第 3 次産業

趾風地区には第三次産業として清水屋（旅館）とももたろう（民宿）という 2 つの宿泊施設がある。

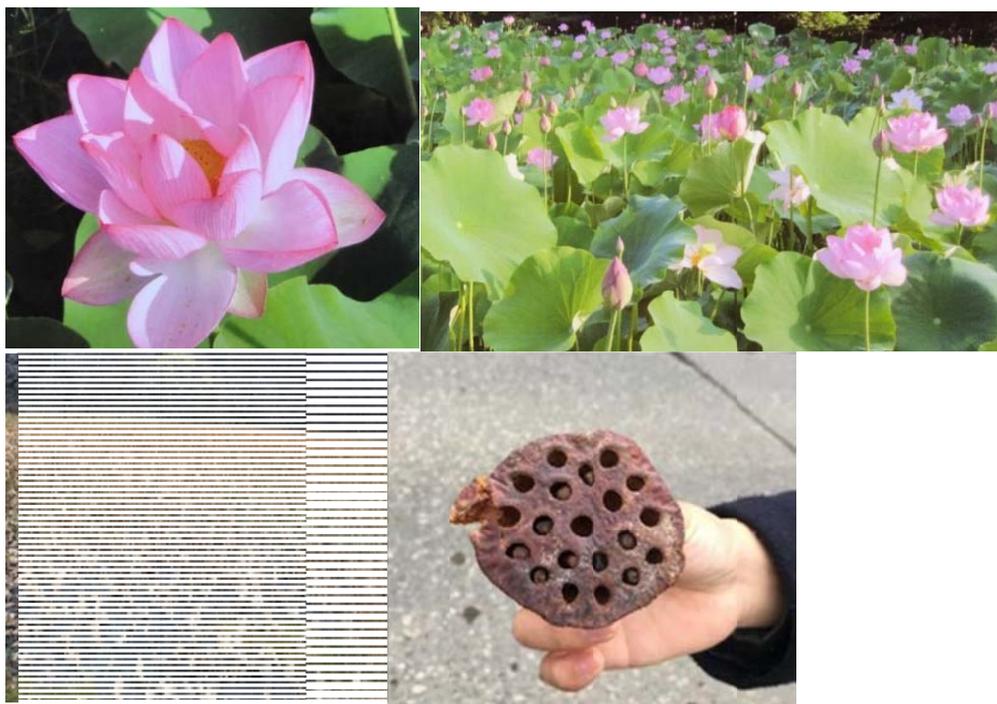
清水屋（旅館）さんは、平野ハシメさん（86 歳）が父から受け継ぎ、経営をしていたが現在は次男夫婦（50 代）が営業している。後々、清水屋の経理をしている長男（60 代）が継ぐ予定である。次男がるるぶや楽天トラベルなどネットで積極的にアピールすることで若者が多く訪れるようになった。宿泊客を車で送迎し立ち寄り温泉の案内を行うサービスもしている。また、毎年伊南村で行われる剣道大会の参加者（100 名ほど）を町が各地の民宿に振り分けている。あゆまつり（10 月）、スキー大会（2 月か 3 月）、ウルトラ 100 km マラソンなどのイベントや古町の大イチョウを見に来る人がいるため、現在経営状態は安定している。

ももたろう（民宿）さんは小豆温泉のお湯を使用した温泉風呂があり、肌荒れ、あせも

やアトピー皮膚炎など皮膚に関することや、打ち身、五十肩、冷え性などに効き目があり食事はお米や味噌、野菜はできるかぎり自家栽培したものを使用している。高畑スキー場まで車で 20 分と近く、民宿内にはスキー板を手入れできるスペースがある。また、春から夏にかけてはわらび刈り体験ができる。

3.4 観光資源

写真 4 蓮畑の様子



上段 区長さん提供
下段 撮影日 2017年11月18日

3.4.1 蓮の栽培状況

現在は平野源太郎さん、伯子さん夫妻が栽培している。元々は、リンゴ畑だったが災害で続けることが不可能になってしまったため、新潟からの旅行客の勧めでレンコンを栽培し始めたが土砂で栽培ができなくなってしまった。それ以降、伯子さんが花好きだったため古代蓮という観賞用のハスを植え始め、ピンク色の綺麗な花が咲くようになった(写真 4 参照)。これにより写真愛好家がよく訪れ、ハス畑と夫婦を写した写真が賞を取ったと言って写真を送ってきてくれた。ライフフラワーが若松周辺でよく売れ、枯れた花は仏様にお供えしたり、手芸品を作ったりしている。

3.4.2 林檎の栽培状況

現在は区長である平野恒二さんの家で作られている。以前は多くの農家で栽培していたが高齢化や自然災害による被害(台風や雪)などでやめてしまった。直売所は3か所ほど

あったがそれぞれ、人手不足や高齢化を理由に辞めてしまった。昔はデイサービスの人を対象にしてリンゴ狩りやリンゴ煮をふるまったりしていた。紅玉という種類のリンゴを栽培していて、このリンゴは酸味が強くお菓子作りに向いている。

3.4.3 尾瀬の影響

総入山者数；326,100人（2015年）であり観光シーズンは5月下旬赤渋、5月下旬～6月中旬水芭蕉、7月ワタスゲ、7月下旬～8月初旬ニッコウキスゲ、8月下旬～9月中旬草紅葉、9月下旬紅葉というように季節によって様々である(写真5参照)。

7月のニッコウキスゲ・ワタスゲ、6月のミズバショウ時期に集中しており蓮の見頃は6月下旬～8月上旬なので、ちょうど尾瀬の観光客が集まるシーズンと被っている。

車で行く場合に会津若松を通過して行くルートがある(図5参照)。

そのため、耻風は通り道になり、道路沿いにある蓮畑を見る機会はあるが早朝から尾瀬に向かう車が多いため、長時間滞在することはない。

「ただ自分が好きでやっているだけだからそれを見て喜んでくれる人がいるのは嬉しい。」と伯子さんはおっしゃっていた。

図5 尾瀬へのアクセスルート



[出典]尾瀬保護財団

参考 URL(<https://www.oze-fnd.or.jp/ozb/b-as/>)

写真5 尾瀬高原



[出典]UPON ホームページ

参考 URL(UPON<https://www.upon.co.jp/oze/season.html>)

3.4.4 館岩川

館岩川に福島県南会津郡南会津町熨斗戸に流れている。耻風地区の東側を流れている。地区外ではラフティングを行っているところや伊南川でアユ釣りが解禁される 7 月中旬 9 月中旬はアユ釣りも行われている。特徴は川の流りが比較的緩やかで、水深も浅く、区長さんとともに水切りをして遊ぶことができた。川がエメラルドグリーンに輝いていて、川底がみられるほど透き通っている(写真 6 参照)。

写真 6 館岩川の様子



撮影日 2017 年 11 月 18 日、12 月 10 日

3.5 耻風地区の暮らし

3.5.1 インフラ面

3.5.1.a 交通情報

耻風地区は南会津町中心部より南西方向に約 37 km、旧伊南村中心部より南方に約 7 km に位置している。集落には南北に国道 352 号線が通り、国道 401、289 号線を使うことで旧伊南村、会津田島方面へ向かうことができる。

これらの道路は住民の通勤、通学、買い物、医療機関の受診などの日常生活に欠かすことができない。同地区は標高約 600 メートルにあり、伊南地域の中でも特に冬季の積雪が多いが、上記の国道には速やかな除雪が自治体によって行われる。このため交通面への影響はそれほど大きくはないという。自動車の保有世帯は 18 世帯中 17 世帯で、車での移動が生活において必須であることがわかる。

公共交通機関は会津乗合自動車株式会社による路線バスの耻風停留所がある。1 日数本程度、会津田島駅、会津高原尾瀬口駅方面に運航している(写真 7 参照)。

写真7 耻風停留所の時刻表

行先	時刻	時刻
金津高尾尾瀬口駅前	(高)41	
金津田島駅	46	32
検校岐		
金津高尾尾瀬口駅前	(高)26	32
金津田島駅	(高)36	12
検校岐		42

撮影 2017 年 11 月 18 日

3.5.1.b インフラ情報

簡易水道の普及率は 100 パーセントである。浄化槽（単独・合併）の普及率は 73 パーセントである。光ケーブルの普及率は 30 パーセント、携帯電話の接続は大手三社すべての接続が可能である。

3.5.1.c その他

地区では毎月何らかの年中行事があり、集会所で住民同士が集まることもよくあるという。人口が少ないため、ほとんどの世帯主あるいは家長が何らかの地区役員についている。多くの世帯が自家用の農地を持ち自家消費用の作物を栽培している。

3.5.2 周辺の教育機関

耻風地区は、教育機関から遠距離かつ高い標高に位置し、冬場は降雪があるため、自転車は実用的ではない。したがって、多くの子供はスクールバスか、親の送迎によって通学している実態がある。

図 6 耻風地区における教育機関



[出典]グーグルマップを元に作成
 参考 URL(<https://www.google.co.jp>)

3.5.2. a 幼稚園

学校名	所在地	通学区
館岩幼稚園	松戸原 55	南会津町の全区域

耻風地区より、国道 352 号線を経由し南東方向に車で 6.7 km 進んだところに位置する(図 6 参照)。車で約 6 分の距離で、耻風地区から最も近い町立幼稚園。児童数は約 70 名。

3.5.2. b 小学校

学校名	所在地	通学区
伊南小学校	古町字石原 525	古町、多々石、青柳、小塩、宮沢、浜野、白沢、内川、耻風、大原、小立岩、大桃

南会津町立伊南小学校は耻風地区より北東方向に位置しており、国道 401 号線を経由し車で約 7.5 km の距離がある(図 6 参照)。徒歩とバス(田島・内川線 内川～古町タバコ屋前)を利用する場合は、約 40 分かかかる。2016 年度の全児童数は約 60 名で、普通学級と特別支援学級で構成されている。

3.5.2.c 中学校

学校名	所在地	通学区
南会津中学校	鴛巢字平林 573	伊南小学校区、南郷小学校区の全区域

南会津町立南会津中学校は耻風地区より北北東方面に位置しており、国道 401 号線を経由し車で約 15 kmの距離がある(図 6 参照)。徒歩とバス(田島・内川線 耻風～山口営業所)を利用する場合は約 50 分を要する。2016 年度の全児童数は 82 名で、普通学級と特別支援学級で構成されている。平成 25 年 4 月 1 日、伊南中学校・南郷中学校の 2 つの中学校が統合し開校した中学校。

3.5.2.d 高校

学校名	所在地	通学区
南会津高校	界字向川原 2000	会津学区
田島高校	田島字田部原 260	会津学区

福島県立南会津高校は耻風地区より北に位置しており、国道 401 号線と 289 号線を経由し車で 19 kmの距離がある。(図 6 参照)この高校の近くには寄宿舍「時習寮」があり、交通の便が極めて悪く、登下校に著しく支障をきたす生徒の生活の場となっている。

また、スクールバスが出ており、田島・荒海方面のものと、寮に入寮する生徒のための館岩方面のものがある。

福島県立田島高校は耻風地区より東北東方面に位置している。バスと電車を使う場合は、中山峠・尾瀬線で会津田島駅前まで行き、会津鉄道で、会津田島駅から田島高校前で下車する。田島高校には環境科学コースと情報会計コースがある。

3.5.3 周辺医療機関

南会津町内の医療機関は、ほとんどが会津田島駅周辺に密集している。近年、高齢化により近隣の病院は相次いで閉院しており定期的な検査・通院は会津田島まで行かなければならない(図 7 参照)。

図 7 周辺医療機関



[出典]グーグルマップを元に作成
 参考 URL(<https://www.google.co.jp>)

4. 課題

4.1 高齢化

耻風地区でも、日本全国の課題となっている高齢化が著しく進んでいる。少子化率は、全国平均の 12.4% と比べ 11.4% と 1% しか変わらずあまり深刻的でないように思われるが、昭和 50 年と比べ、人口が 22 人も減少している。

現在耻風地区の高齢化率は 38.6% であり、全国平均 27.8% を上回る耻風地区の特徴としては他の地区に比べ 15 歳以下の若年層が比較的多い事で高齢化率が引き下げられている。だが、集落の機能を維持できる人員の減少により集落の運営を行う事の出来る人が減少しており将来的な集落の維持が難しいとされている。

実際に集落の聞き取り調査を行った結果、集落の維持をしていく事は 5 年～10 年は行えるがそれ以降については住人自身では行っていくことは難しく企業、行政に頼る事になるだろうとの意見もあった。

高齢化が進行していき、高齢者の 1 人暮らし世帯が増加し、雪かきを行うときは他の住民に頼る事になっている世帯もあり地域住民の負担が年々上昇している問題もある。その他にも、空き家が増加しており雪かきなどの管理を有志で行っているため、冬期の負担となっている。

また、蓮畑の管理は手入れに時間がかかり、特に草刈りが大変なようでシルバー人材を雇ったりしていたが雇う代金が高かったため現在は住民 2 名により作業をこなしている。高齢になってくるとその作業も大変になる。

畑の管理について、現在は共同で管理して耕作放棄地は出来ていないが将来的には他の地区同様に耕作放棄地が出てしまい景観の悪化につながってしまうという地域住人の懸念もある。

4.2 暮らし

耻風地区周辺は行政、学校、商業施設が周辺になく車での移動が必須になる。

地域での就職が農業等であり給料が安く生活が出来ないため、若者は就学などで一度県外に出るとそこで就職し耻風には戻らず、耻風からの人口流出の一員となっている。

近年では、近隣の病院も医者の高齢化のため閉院していつている現状があり、聞き取り調査を行ったところ1時間以上かけ都心の病院で検査を受けなければ行けないという。

また、冬期は豪雪地帯であるため積雪が多く雪かきが生活を圧迫している。住民の生活は朝早くおき雪かきを自身の家と担当を受け持っている箇所を昼頃まで行う、耻風地区は豪雪地帯であるため雪かきをしなければ家がつぶれてしまうためであり負担が大きい。

その他にも、子供が周辺で遊べる場所がなく他の地区に遊びに行くために親の送迎が必須となり生活の負担になっている。

4.3 観光資源

耻風地区は会津尾瀬高原への通り道であり、現在耻風集落で栽培している古代蓮を目当てに観光客が停留する事があると地域住民からの聞き取りで分かった。だが、観光バスは朝早くか、夜遅くのみに運航しており観光客を相手に耻風地区の特産品を買うことなく素通りしている問題がある。

また、冬になると地区を訪れる人は増えるが、車で寝泊まりする人が多い。地元の旅館を利用する場合でも、素泊まりの客が多く、料理を提供する機会が少ないため、耻風の魅力を知ってもらう機会が少ない。また、ソバや南瓜の種・リンゴのオープン焼きなど、商品化できそうなものがたくさんあるが地域内での統一化やブランド化がなされておらずソバなどのパッケージなども人目に付きにくい。

その他にも、現在は使われていない土蔵があり行商人が使用した名残により道に面しており村のシンボルとして活用できる物だが活用されていないなどが挙げられる。

5. 提案

5.1 観光マップに耻風の名前を増やす

耻風地区の知名度を上げるため、我々は会津田島駅等で無料配布されているパンフレットを調査した。すると、会津地域の観光をテーマにしたパンフレットの中にある広域図において、耻風の地名が載っているものは会津高原ふるさと推進協議会事務局が発行したパンフレットだけであった。南会津町が発行した30ページにも及ぶパンフレットの中にも耻風の地名はなく、わずかに宿泊施設として清水屋旅館が載っているだけであった。

表中に、会津地域のマップのある観光パンフレットと耻風の記載の有無をまとめた(表1参照)。

表1 パンフレットにおける耻風の記述の有無

パンフレット名	発行元	耻風記載
ようこそ！！会津高原 2017年度	会津高原ふるさと推進協議会事務局	あり
南会津町 2017	南会津町役場	無し
おいでよ！南会津。	福島県南会津地方振興局	無し
極上の会津	極上の会津プロジェクト協議会	無し
会津ねがいたび	極上の会津プロジェクト協議会	無し

[出典] 南会津パンフレットを元に作成

耻風地区の蓮畑、蔵、ソバ、舘岩川、山桜、野鳥の情報を載せる。特に蓮の開花の時期である6月下旬～8月上旬は写真家が蓮の写真を撮るために訪れる事もある蓮の写真や道に面しており数多くある状態の良い蔵を他の集落との差別化を図るためにシンボルとして用いる。耻風地区周辺の豊かな自然は地元の住人にとっては日常であるため魅力を感じないが都心の住民にとっては豊かな自然を直に感じ体感できる舘岩川、山桜は十分な観光資源となりうるそのためマップに耻風の自然を獨協大学生の目線で選んだ物を組み込む。

その他にも、耻風地区には多くの希少な野鳥も生息しており野鳥の観察も行えるそういった包括的資源を観光パンフレットに組み込む事で認知度を上げる事を目標とする。

宿泊施設である清水屋、ももたろうのサービス情報は現在住所、連絡先のみとなっているがももたろうでは山菜取り体験や地域で取れた食材を使ったソバや地元の料理を提供してくれる。そういった提供してくれる料理、体験、お土産を載せる事で耻風地区の特色をアピールする。

5.2 耻風の特産品のブランド化

現在耻風地区では平野隆伸さんが会津のかおりを栽培、販売しており、宇都宮、道の駅、らくらく市、田島JAにおいて1週間に4,5個程度売り上げている。初めは耻風産というようにブランド化して売るつもりだったが、道の駅などでは南会津ブランドの会津のかおりの方が売れ行きがいいということで耻風ブランド化を断念した。ブランド化をするのであればパッケージを刷新するなどして協力できると仰って下さっている(写真8参照)。

写真 8 会津のかおりパッケージ



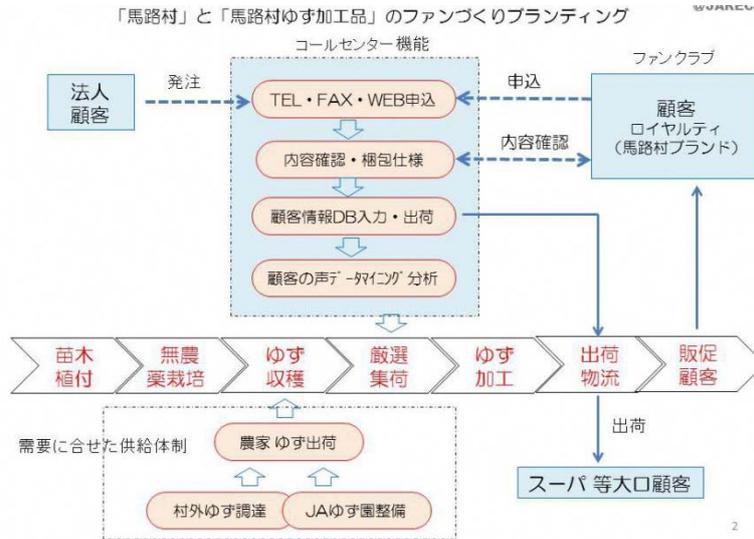
撮影日 2017年11月18日

高知県馬路村の地域ブランド構築を例に見てみると、高知県馬路村は人口 1200～1300 人で、山間部に位置する村であり。林業の衰退とともに、産業の停滞、人口減少、高齢化といった課題を抱えていた。そこで、村長のリーダーシップのもと、「農業、林業、観光」で人々が定住できる村づくりを方針として、村の資源を最大限に活用した活性化を試みた。

地域の特産品として根付いていたゆずの加工品の開発・販売に取り組む(図 8、9 参照)。「名前も知らない村の特産品は売れない」、「名前も知らない村には遊びに行けない」という考えから、商品名に村の名前を入れ、村内販売、物産展への積極的な出展、通信販売を通じて、昭和 60 年代からリピーター客の獲得を進め、独自のネットワークを形成した。主な取り組みとしては、村名を商品名に掲げ村全体を売り出す戦略を採用し加工品の開発(ドリンク、ポン酢、化粧品、ジャム等)や商品デザインやパンフレット、販売戦略などを外部デザイナーと協働し企画を行い大都市の人にも認知してもらうため、百貨店等の物産展への積極的な出展やテレビ CM 等への挑戦や郵便、電話での注文による通販を 30 年以上にわたる地道で粘り強い販売経路開拓を行った。

特産物の「ゆず」の加工品を数多く開発し、高付加価値農業を確立した事により雇用者数の拡大(1991 年 2 名→2012 年 10 月 75 人)やゆずの村としての全国的な知名度獲得できた結果。2006 年 3 月には、散在する工場を集約する「ゆずの森」が完成し、2012 年にはわずか 1200 人強の村でゆず加工品の年商は 30 億円を達成した。現在は、リピーター客の獲得や 2012 年冬から販売を始めたゆずを原料とした化粧品の売上拡大、次世代の後継者育成を目指し活動している。

図8 馬路村生産、流通までの流れ



[出典] 公益財団法人 全日本地域研究交流協会. 目で見てわかる地方創生. JAREC
 参考 URL(<http://www.jarec.or.jp/archives/archives01/290400001.html>)

図9 馬路村生産加工と関連ビジネス



[出典] 公益財団法人 全日本地域研究交流協会. 目で見てわかる地方創生. JAREC
 参考 URL(<http://www.jarec.or.jp/archives/archives01/290400001.html>)

馬路村の例から、私達は耻風そばのブランド化及びブランド化に伴う名称変更を提案する。現在のパッケージは商品名に耻風が載っておらず耻風が美味しい蕎麦を栽培しているという認知度が低いため地域名「耻風」を入れることによる PR 効果の上昇を図ると共にパッケージデザインの変更による若者からお年寄りまで幅広く受け入れられるデザインの検討を行う。写真 9、10 のようにキャラクターを活用し色を使ってポップなデザインにし、手に取りやすくするなどの工夫により手に取りやすくする事を考えている。

写真 9 北海道キャラメル



[出典]函館市公式観光情報 ホームページ

参考 URL(<https://www.hakobura.jp/db/db-present/2012/09/post-60.html>)

写真 10 新潟しろくま会で特別栽培しているコシヒカリ



[出典]しろくまのお米ホームページ

参考 URL(<http://www.niigata-shirokuma.jp/>)

5.3 耻風の方々が獨協大学を訪れ交流会の開催

2 回目の調査の 2 日目に、地域の方々を含む意見交換会が行われた。そこである方から、「そばや山菜などがどのくらい若者に受けるのか、実際に見て確かめたい」との意見があった。その後メンバー内で話し合い、耻風地域の方々に直接若者（獨協大学生）の反応を見て頂くことは、今後の耻風地区の地域復興への大きな原動力となるのではないかと、意見がまとまった。また、耻風地域の方々に直接足を運んで頂くことで、1 人でも多くの学生に耻風を知ってもらうことの出来る、貴重な機会となるのではないかと考える。

耻風地域の方々は、主にそばや山菜の若者への売り出し方の改善点が見つかると考えられ、大学側としては、そばや山菜を通し、耻風地区を知るきっかけを多くの学生に与える機会となるだろう。また、導入に際しては、獨協大学では EARTH WEEK DOKKYO という地球環境保全に関する啓蒙活動の一環としてフードマイレージを削減する一環として地

元の農家を招いて大学内においてマルシェを開いた実績から大学に耻風住民を招く下地は出来ておりイベントを行う事は可能であると考える。

このイベントが実現すれば、獨協大学内において地域振興を専門に行っているゼミや部活などの合宿でスキーを行っている団体や自然環境を扱う団体との接点が生まれ耻風地区への獨協大学の生徒が遠征に訪れる効果も予想される。

5.4 耻風地区の蔵の活用

耻風には個人所有の蔵が7棟あり、うち1棟は強風により屋根が破損している。主に物置として使用されているが、降雪時の雪下ろしなどの負担が大きく、取り壊す方針であることが聞き取り調査によって判明した。耻風の蔵は道沿いにあり、道行く観光客からも見えやすいこと、数が多いこと、状態が良いことから、取り壊すのではなく、活用して耻風のシンボルにすることを目指すことにした。活用方法としては、宿泊施設またはカフェ、飲食店にするという提案をする。宿泊施設の場合、1棟すべて貸し切りにすることで少人数で管理運営することが可能になるという利点がある。

カフェ、飲食店の場合には、地区の特産品をメニューに加えることで、PRになり、また、地区周辺には競合店が存在しないことも特筆される。このことから、カフェ、飲食店にした場合、地域の住民が集まるコミュニティの場になることも予想される。

いずれの案も複数人で運営にあたることで、今まで個人負担だった蔵の修繕費用、労力が分散され持続的な保存が可能になると思われる。

費用については基本的に間取りなどを変えず、内装工事や断熱・気密工事を主体とするリノベーション工事なら500万円以下で済む場合多いく極端にリーズナブルだった事例の中には、300万円強で賃貸住宅へリノベーションできたケースもある。

実際に現在の蔵をリノベーションする場合、上記の費用に下記の費用が加算される。

- ・冷暖房；本体価格34000円～＋工事費12500円～
- ・こたつ；本体価格10000円～
- ・寝具；10000円以内(2人分)
- ・テレビ；本体価格16000円＋工事費2000円
- ・諸費用10～20万

(食料品など、厳しい冷暖房管理が必要となる倉庫は既存の構造が人の住空間と似ているため、リノベーションでも断熱工事等が不要になるケースも多くなる。)

また一般的な住宅を手に入れる際にも、書類や手続きの費用は思った以上に多くかかるが、倉庫リノベーションの場合は、用地の転用にかかる諸費用がこれらに加わる。手続き費用は地目によって異なるが、これらは専門家に依頼して代行してもらうケースが主体である。すべての費用を含めると10～20万円単位の諸費用がかかることをあらかじめ想定しておく必要がある。

実際の先行事例を見てみると、京町家一棟貸し宿「蔵や」は、京都の街に佇む一日一組

様限定で一棟貸切りで宿泊できる施設であり、築約 100 年の京町家をフルリノベーションして造られている。

最近の京都では町家に住む人の減少により空き家が急速に増え、傷んでいく町家も少なくはなく、このような状況にある京町家を再生する一環として、町家のオーナーなどの協力で、宿として生まれ変わらせた。

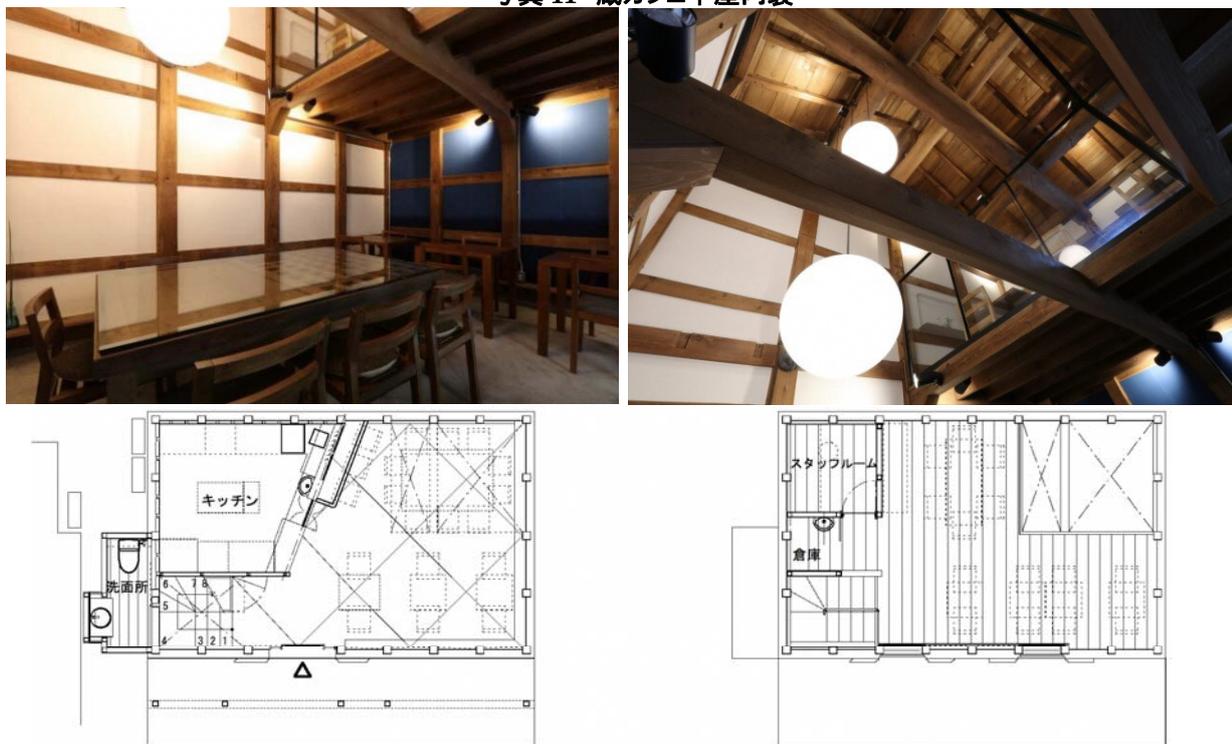
ここでは、スタッフは常駐しておらず、緊急時に各町家に設置された専用の携帯電話で連絡を取ることができる仕組みになっている。

耻風で導入した場合にもカフェや飲食店とは違って、清掃などはやらなくてはならないが、常にスタッフが滞在する必要がないので、人手不足の問題があっても運営することが出来る。

夏は涼しく、冬は暖かいため快適に過ごすことが出来ると共に南会津には温泉がたくさんあるので、宿泊した際に温泉チケットを配布するなどのサービスも行うといいのではないかと考える。

また、「蔵カフェ中屋」は「地域の皆様が気軽に集まれる場所を提供したい」というオーナーの思いから 2016 年に埼玉県草加市にオープンした(写真 11 参照)。

写真 11 蔵カフェ中屋内装



1階平面図

2階平面図

[出典] 埼玉県草加市 カフェ&レストラン「蔵カフェ中屋」 公式サイト

参考 URL(<https://kuracafe.com/space-rental>)

内部は丈夫な天然の木を丸々使った太い柱と梁があり、20センチほどの厚さのある漆喰の壁が使われている。店内には蔵の扉をリノベーションして作られたテーブルがあり、蔵の歴史を感じながらゆったりとした時間を過ごせる空間を提供している。

入り口近くに立つ椎の木には樹齢約200年の大木を使用し、自然を生かした作りになっており、この蔵カフェ内で、イベントやミニコンサートなども行っている。ならではの空間を利用して、ワークショップやライブ、パーティー等に使用できる。

その他にも、愛知県豊田市には地元の農産物を使用したメニューを提供する蔵カフェがある。農産加工品などを購入できるマルシェ（ショップ）がある築100年の蔵と古民家をリノベーションした施設である。蔵カフェではその時期の旬な食材を使用するために季節や収穫状況によって使用する食材やメニューを変えているそうだ。カフェの予約も行っている。マルシェでは地元の野菜や旬の食材を使ったお弁当の販売を行っている(写真12参照)。蔵カフェではとうもろこし料理、農家の方の談義、食べ比べなどをするとうもろこしのイベントや、おでん会、伝統的なお菓子を作るひな祭りのイベントなども行っている。

写真12 マルシェの農産物売り場



[出典]ころも農園

参考 URL(<http://koromonouen.boon-log.com/e348540.html>)

6. 終わりに

今回、耻風地区の現地調査に際しまして村の方々支援により第1陣、第2陣の調査を円滑に進める事が出来た。聞き取り調査において各家庭においておもてなしをして頂いた事、送迎や歓迎会を行って頂いた地区の人々の暖かさで支援して頂いた全ての人に感謝を申し上げると共に今後は、今回結ぶことが出来た耻風地区の皆さんとの関係をさらに発展していくと共に実証実験に向けて準備を行う事でより良い提案とする事を目指し活動していく。今回、時間及び予算の都合により1陣、2陣2日の滞在となり住民の方と十分に交流できたとは言えなかったが、来年度以降も交流を重ねる事で耻風地区の方々と獨協大学の生徒が集落復興のためにより深い議論を行えるようになり、より良い提案を作り、実現する事が

出来ると考える。

7. 調査資料

7.1 そば打ち体験

2種類のそばの打ち方を、2チームに分けて教えて頂いた。

I. 「裁ちそば」の作り方

材料（10人分）：そば粉 1kg、取り粉 100g

1. 練ばちに、そば粉 1kg を入れて熱湯 300cc を注ぎ、箸で混ぜる{熱湯を数回に分けて注ぐと良い}
2. 両手で、全体になじませる
3. 2に、300cc の水を加え練り上げる
4. 練り上げたものを 5 等分に分ける
5. のし板に取り粉をふり、厚さ 2~3mm 位の円形（30~40cm）にのす（のし上がったなら別の場所に移し乾燥を防ぐ為シート等で覆う）



6. 外のものを順次のし上げ、初めのものに積み上げてゆく（重ねる時、間に取り粉を振り、くっつかないようにする）
7. 重ねた 5 枚を、右はじのほうから、包丁でできる限り細く切っていく



8. 大き目の鍋に、たっぷりのお湯を沸かし、一握のそばをほぐすようにして入れる
9. 箸でさっとかきまぜる
10. そばが浮き上がり少し回転したら（10秒位）あげて、冷水で洗う
11. そばざるに盛り分ける

II. 「江戸流手打ちそば」の作り方

材料（二八の場合）：そば粉 800 g、小麦粉 200 g、天然水 500 g（粉の量の約半分）

1. 粉を篩う（ふるう）
2. 水回し・加水（1回目） 用意した量の半分を加える
3. 水回し 粉と水を混ぜる。身体全体を使って混ぜる。こねないこと。
4. 加水（2回目） 残りの水の半分を加えてさらに良くていねいにかき混ぜる。生パン粉のような状態になるまでひたすら・混ぜる。こねてはいけない。
5. 加水（3回目）・最終の加水 残った水を手にとって少しづつ加えて調整する
6. 水回し・仕上げ 更に、ていねいに混ぜていくと大きなかたまりになる。
*ピンポン玉くらいのかたまりがたくさん出来ていれば、大成功！
水回しが完全に出来ていれば、自然にまとまるので混ぜつづけるのがコツ。
7. 捏ねる（こねる） 全体をまとめて体重をかけて練る



8. でっちる、くくる でっちあげ 捏ねを続けて全体をひとつのかたまりにまとめる。
へそだし
9. 手を洗う（2回目） 手についている粉の乾燥したかたまりなどをきれいに洗い落とす。
10. 鏡出し・丸出し 手を使って延す。へそだしをしたかたまりを上から押しつぶす。お供え餅のような形にする。
11. 丸出し 棒を使って延す。厚さを一定に！{水分が飛んでしまうため、素早く行う}
12. たたみ 打ち粉をうちながらたたむ。たたんだら切り板にのせる。
13. 包丁（切り） 切りべら 23本（一寸幅を 23本に切る）

そば打ち体験は初めての経験で、一つひとつの作業がどれも新鮮だった。また、作業を正確にこなしながらも楽しむことが出来た。区長の平野恒二さん・集落支援員の湯田信隆さんをはじめ、多数の町会の皆さまから丁寧にそばの打ち方を教えて頂いたため、美味しいそばが出来た。十割そばは香り・コシが強い。そして、二八そばはもちもちとした食感である。そばを食べ比べる経験はなかなかない為、とても貴重な経験となった。現在、耻風にそばを食べることの出来る施設はないが、曲家では食べる事が可能である。第1弾の調査の後、町民の平野隆伸さんが栽培しているそば粉を使い、そばガレットを作った。そばの香りがほんのりとする、ヘルシーなガレットが出来た。



[参考 URL]

[1]会津みなみ農業協同組合

<http://vegetable.alic.go.jp/yasaijoho/santi/0408/santi1.html>

(最終閲覧日はいずれも 2018 年 2 月 26 日である)

[2]アイリンク国際特許商標事務所

<https://www.syouhyou-touroku.or.jp/touroku-syouhyou-tiiki-brand/fukusima-kenn/nann-gou-tomato/>

[3]馬路村農協

<https://www.yuzu.or.jp/>(参照 2018-1-20)

[4]温泉民宿ももたろう【公式サイト】

<http://aizu-momotarou.com/>

[5]Gaccom[ガッコム]

www.gaccom.jp

[6]蔵やについて - 【公式サイト】 蔵や - 京都

<http://www.machiya-stay.co.jp/about-kuraya/>

[7]蔵カフェ&マルシェ 『ころも農園』 - 豊田市の農家カフェ

http://koromonouen.bo-log.com/d2015-03_2.html

[8]公益財団法人 全日本地域研究交流協会. 目で見てわかる地方創生. JAREC

<http://www.jarec.or.jp/archives/archives01/290400001.html>(参照 2018-1-20)

[9]ころも農園の店舗案内 | 蔵カフェ&マルシェ 『ころも農園』 - 豊田市の農家カフェ

<http://koromonouen.bo-log.com/e348540.html>

[10]災害時気象速報

www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/saigaiji_201102.pdf

[11]埼玉県草加市 カフェ&レストラン「蔵カフェ中屋」 公式サイト

<https://kuracafe.com/space-rental>

[12]JAPAN Patent Office

www.jpo.go.jp/torikumi/t_torikumi/jirei_pdf/2009-04_5015204.pdf

[13]地震リスト

<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/sourceprocess/index.html>

[14]倉庫リノベーションにはいくらかかる？費用・相場の基礎知識 | LIMIA (リミア)

<https://limia.jp/idea/33498/>

[15]中小機構. ゆず加工品で村を丸ごと売り込み、地域ブランドを構築！

http://www.smrj.go.jp/doc/research_case/shokuryouhin33.pdf(参照 2018-1-20)

[16]地域クリエイターが魅力を引き出す！

https://hataraku.vivivit.com/column/region_package_design

[17]南郷トマト栽培～歴史～

http://www.nangotomato.jp/Cultivation_History.htm

[18]南会津の観光・旅行情報 | 南会津町観光物産協会 温泉民宿 ももたろう

<http://www.kanko-aizu.com/tomaru/1058/>

[19]南会津町医療機関リスト

www.minamiaizu.org/fukushi/cat4/000047.php

[20]南会津町教育ポータル

www.minamiaizu.gr.fks.ed.jp/

[21]福島県南会津町 小・中学校の一覧

www.minamiaizu.org/fukushi/cat6/000053.php

[22]福島県立田島高等学校

www.tajima-h.fks.ed.jp

[23]福島県立南会津高等学校

www.minamiaizu-h.fks.ed.jp